

2023年度 第3回 環研カンファレンス 「疾病の理解と治療法へのアプローチ」

日時：2023年12月22日(金) 14:00~17:00

場所：南館大会議室（現地開催のみ）

演題1 「ゲノム安定性に関わる DNA 損傷トレランス機構の新たな因子の同定」

金尾 梨絵 (名古屋大学 環境医学研究所 ゲノム動態制御分野 助教)

DNA 損傷は DNA 複製を阻害しゲノム不安定化を引き起こす。そのため、細胞には DNA 損傷による複製阻害を解消しゲノム安定性の維持に貢献する DNA 損傷トレランスと呼ばれるメカニズムがある。本セミナーでは新たに同定したヒト細胞の DNA 損傷トレランス因子について報告する。

演題2 「後期エンドソームから脱殻する RNA ウイルスの感染分子機構」

三宅 康之(名古屋大学 医学系研究科 微生物・免疫学講座 ウイルス学 特任准教授)

新興・再興ウイルス感染症に対する新たな予防・治療戦略には、ウイルス感染の分子機構の理解が必須である。宿主因子の働きを巧みに利用し感染する単純で？複雑なインフルエンザウイルスやコロナウイルスの細胞内侵入の分子メカニズムについて、最近の知見を含めて紹介したい。

演題3 「アストロサイトの多様性と形態の分子的基盤および 中枢神経系疾患との関連」

遠藤 史人 (名古屋大学 環境医学研究所 病態神経科学分野 特任講師)

グリア細胞の一種であるアストロサイトは中枢神経系の恒常性維持に重要であるが、最近、われわれは、マウス脳脊髄の13領域のアストロサイトの遺伝子プロファイルと形態解析からアストロサイトの多様性や形態形成の分子基盤を明らかにした。本セミナーでは、アストロサイトの形態の複雑性の精神・神経疾患における意義を中心に議論したい。

演題4 「疾患モデルを基盤とした筋ジストロフィーの新しい治療法開発」

青木 吉嗣 (国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 遺伝子疾患治療研究部 部長)

デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)は、骨格筋と心筋だけでなく中枢神経系にも影響を及ぼす疾患であり、全身的な治療法の開発が極めて重要である。本セミナーでは、われわれが開発した疾患モデル動物やヒトの3D培養モデルを活用し、核酸医薬や mRNA 医薬などの最先端治療モダリティの開発の現状と課題について、皆さんと一緒に考えたい。

今回は外部講師の先生を2名お招きし、内部からの2名の講演と合わせて、拡大版環研カンファレンスとして開催いたします。現地開催のみとなっておりますのでぜひご参加ください。